

1 全体コンセプト

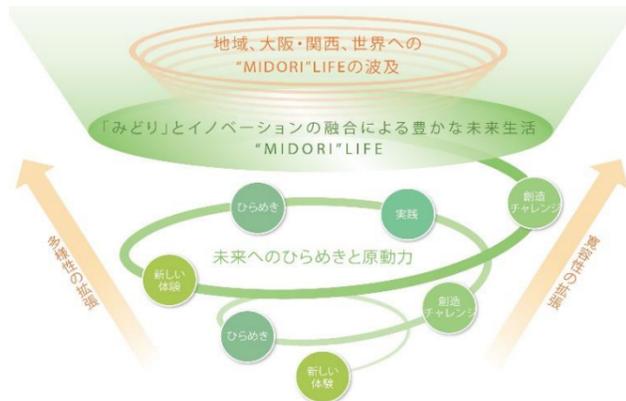
■うめきた2期区域全体の「みどり」のコンセプト

・うめきた2期区域から世界に向けて発信する“MIDORI” LIFE（「みどり」とイノベーションの融合による豊かな未来生活）を生み出す、未来へのひらめきと原動力となる「みどり」の創出をめざす。

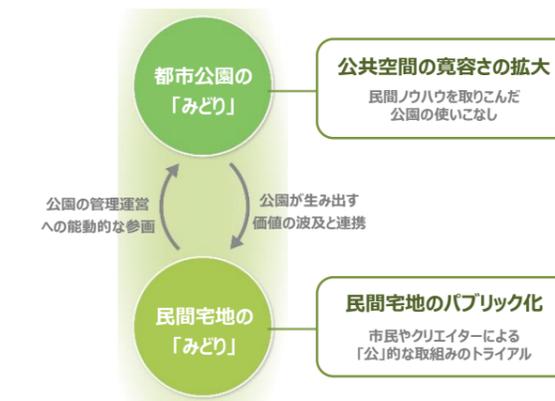
未来へのひらめきと原動力となる「みどり」

“MIDORI” LIFEを成長させ続ける原動力となる空間や機能・マネジメントを備え、国内外から多様な人々と文化・経済活動を呼び込み、大阪の使いこなし文化と融合させて新たなライフモデルを生み出す

都市公園の「みどり」と民間宅地の「みどり」が連携した、一体的な管理運営モデルを構築することにより、市民やクリエイターが「みどり」を公的に使いこなしマインドを醸成する



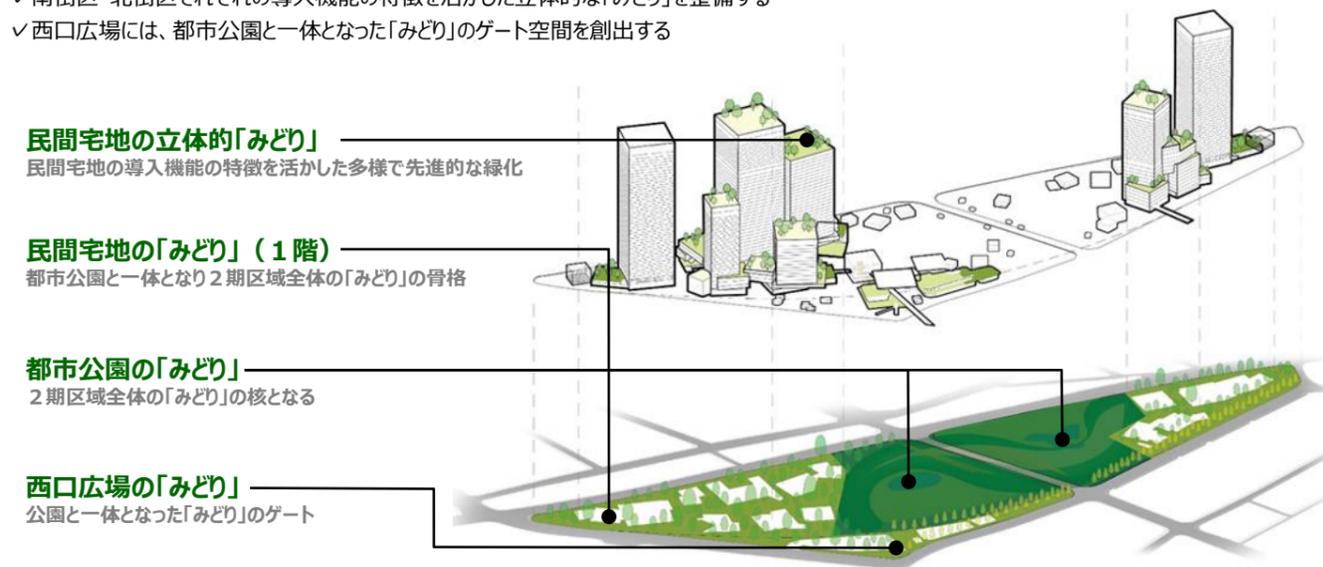
“MIDORI” LIFEの成長スパイラル



「みどり」の一体的な管理運営モデル

■都市機能と一体となった「みどり」

- ✓ グランドレベルの「みどり」は、都市公園と民間宅地を連続的で一体感のある計画とする
- ✓ 南街区・北街区それぞれの導入機能の特徴を活かした立体的な「みどり」を整備する
- ✓ 西口広場には、都市公園と一体となった「みどり」のゲート空間を創出する

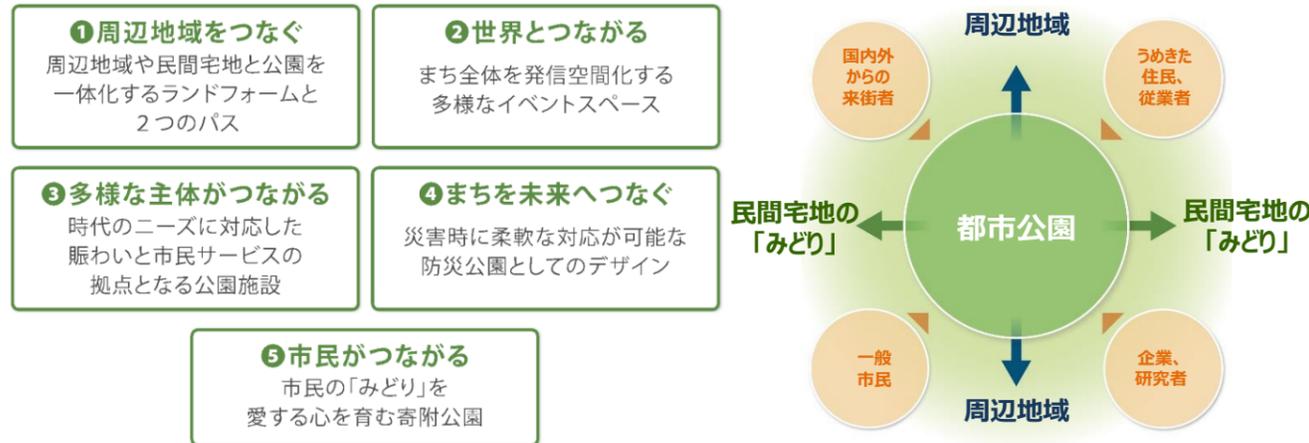


■公園整備のコンセプト

・「うめきた2期区域 まちづくりの方針」など関連計画や公園周辺の地域特性、2期区域全体の「みどり」の整備コンセプトを踏まえ、公園整備のコンセプトを以下のように定める。

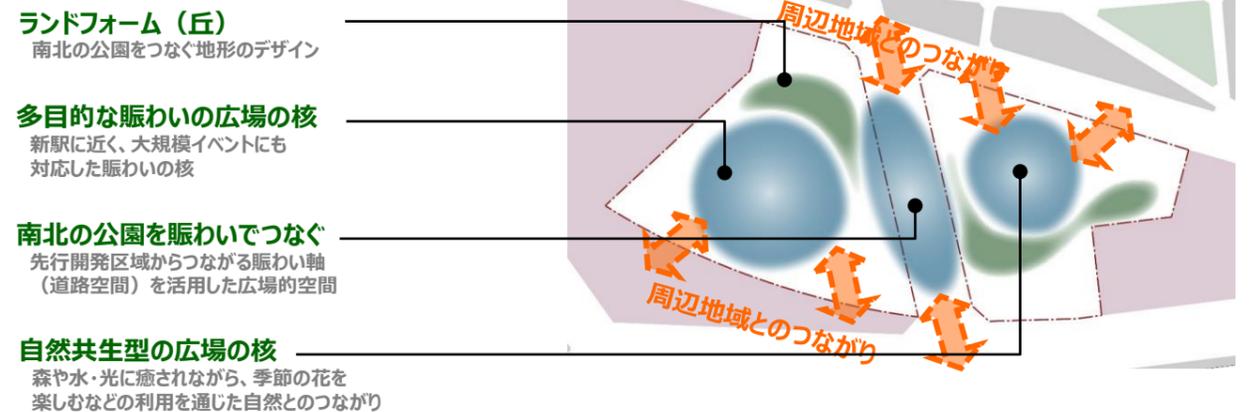
うめきた2期区域の民間宅地や周辺地域をつなぐ「みどり」の核

うめきた2期区域内の民間宅地や周辺地域との空間的なつながりだけでなく、公園利用を通じた多様な主体のつながりや防災公園としてのレジリエンス性の向上による未来へのつながり、「みどり」への愛着を介した市民のつながりをめざす公園とする



■周辺地域につながるランドスケープデザイン

公園の利用の核となる3つの大規模な広場空間と、それらを有機的につなぐランドフォーム（地形のデザイン）によって形成されるシークエンス景観が新駅や先行開発区域、周辺地域との一体感を生み出す。



■環境配慮まちづくりを通じたSDGsの達成

公園やまち全体の「みどり」環境のフィールドの中で、バイオマスや下水熱利用、地中熱利用などの環境技術の成果を「見える化」することによって、「環境」を体感できるショーケースとなる。また、来街者に環境問題への「気づき」を促すことによって、うめきたから周辺地域・社会へと環境意識を発信することにより、未来社会に必要な環境配慮型のまちづくりとそれを人びとが感じ・気づくことを通じて「国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)が達成される社会」に寄与する。



1 全体コンセプト

■公園整備のスキーム

「うめきた2期区域 まちづくりの方針」を実現するため、周辺地域や民間宅地のまちづくりと連動した形で公民連携の上、各種の魅力的な公園施設を効果的に配置し、質の高い公園整備を実現していく。

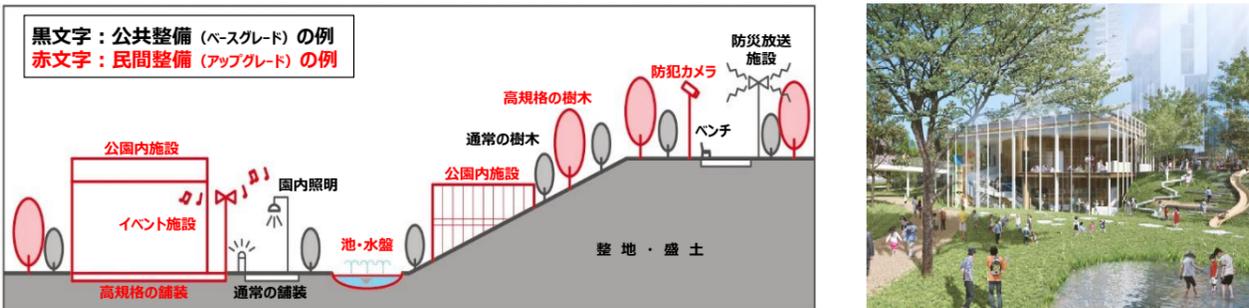
公民連携による質の高い公園整備の実現

公共による質の高い公園整備

防災公園街区整備事業により、うめきたにふさわしい整備水準の公園を実現する（ベースグレード）

民間による公園の魅力高める施設整備

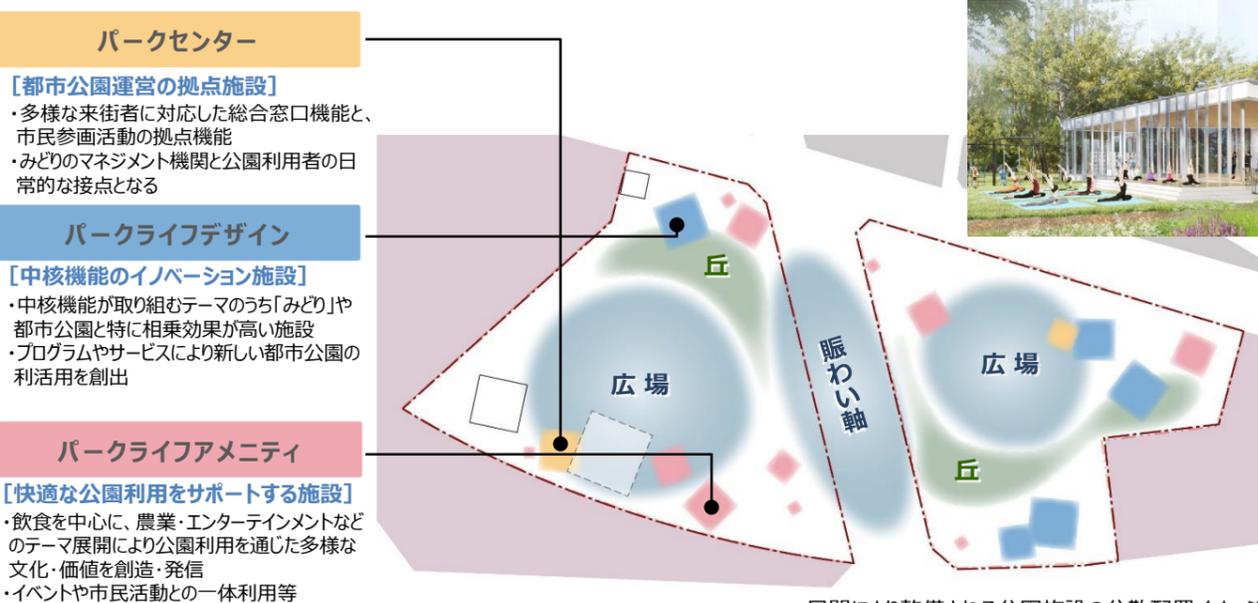
民間の柔軟な発想や優れたアイデアを活かし、まち全体の魅力を更に高める公園施設の整備（アップグレード）



公民連携による公園整備の枠組みイメージ

■民間による公園施設整備のイメージ

「みどり」の整備コンセプトの実現をめざして、広場や丘などの公園空間と一体的に利用され、市民や世界の人のびとによる多様な公園の使いこなし・アクティビティを創造・発信する、民間整備の施設を公園内に分散配置する。



民間により整備される公園施設の分散配置イメージ

■防災機能に関する整備方針

「北区 防災計画」や「大阪駅周辺地域 都市再生安全確保計画」などの関連計画をふまえ、本公園の防災機能に関する整備方針を以下のように定める。

自助・共助・公助の最大化による「災害に強いまち梅田」の拠点

災害想定・被害想定

上町断層帯地震

震度6強～7の地震が発生、大阪駅方面より約3.4万人の一時避難者が本計画地に避難することが想定され、大人数の移動により混乱が発生することが懸念される。

南海トラフ巨大地震

震度5強～6弱の地震発生後、150分程度で2mの津波が到来すると想定されており、迅速な避難指示を行わなければ、多数の死傷者が発生すると予想される。

避難場所の指定状況

- 「うめきた」地区は、北区の広域避難場所に指定されている。（大規模火災・地震時に避難可）
- 計画地周辺の広域避難場所としては、南西約1.8kmの位置に「下福島公園」地区、南約1.2kmに「中之島」地区、東約2.3kmに「淀川リバーサイド」地区があり、北区北西部・福島区北東部には広域避難場所はない。

（『大阪市地域防災計画(震災対策編)』・『北区防災計画』より）

本公園は「防災公園の計画・設計に関するガイドライン(案)」に定める「広域避難地の機能を有する都市公園」として整備し、以下のような防災関連機能を具備することが求められる。

広域避難地の機能を有する本公園に整備すべき主な防災施設

園路広場他

入口形態：大量の一時避難者の進入や、緊急車両の円滑な進入を考慮した幅員等
外周形態：災害時に避難者が容易に進入可能で、公園外周部（歩道等）の安全性も考慮
広場：避難人数に対応した面積や安全性が確保された滞留スペース
園路：避難者の安全な園内移動や、緊急車両の円滑な通行を確保する仕様

水関連施設

災害時に仮設水槽を設置するスペースを確保し、避難者の飲料放水を供給する

非常用便所

避難人数・スペースに対応したマンホールトイレを公園内に確保する

照明等

停電時にも円滑な救援活動ができるよう、非常用の照明施設を設置する

上記に掲げる都市公園内の防災施設と、民間宅地内の空地や建築物など各種施設が一体となって「うめきた地区」全体として、広域避難場所に求められる防災機能を高める。